

2013年(平成25年) 2月27日 水曜日

太陽光発電 1億瓩超

世界4割増 新規導入日本5位

世界の太陽光発電施設の総発電能力が、2012年末の段階で11年末に比べて4割以上増え、100万瓩級原発100基分に相当する1億瓩の万台を超えたことが、欧州太陽光発電産業協会(EPIA)の調査で26日、明らかになった。

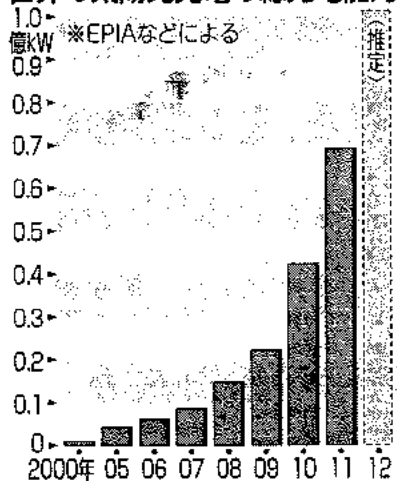
欧州産業協が調査

09年に2千万瓩強だった総発電能力は3年連続で大幅に増加して万台を突破。世界的なブームが続いてい

ることを印象つけた。日本の昨年1年間の新規導入量は250万瓩。昨年の固定価格買い取り制度の導入以

降、増加しているが、トップのドイツの3分の1足らずの世界5位にとどまった。EPIAによると、世界

世界の太陽光発電の総発電能力



全体で12年に少なくとも3千万瓩の太陽光発電施設が建設され、過去最高の伸びを記録した11年に並ぶ増加量となった。総発電能力は速報値で1億100万瓩に達した。

新規導入量が最も多かったのはドイツで、760万瓩。2位は近年、太陽光発電が急拡大している中国の350万、450万瓩、3位イタリヤ(330万瓩)、4位米国(320万瓩)の順だった。

数年前まではドイツやスペインなど欧州諸国が中心だったが、最近ではアジアや中東、北アフリカでも拡大する傾向にある。20年には総発電能力が3億瓩に達するとの予測もあり、EPIAの担当者は「欧州の経済危機などの中でも世界の太

陽光発電は急増しており、世界の発電手法の主流となりつつある」と分析する。